

## 精神障害リハビリテーション論

**問題 37** 次の記述のうち、アンソニー(Anthony, W.)らによる「精神科リハビリテーションの基本原則」に関するものとして、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 就労支援は除外される。
- 2 最大の焦点は、早期の回復を目指し退院させることである。
- 3 当事者は専門職への依存を避け、自身の力で自立を目指す。
- 4 様々な技法を折衷的に駆使する。
- 5 専門職が主導的にリハビリテーション計画を作成する。

**問題 38** 次の記述のうち、パーソナルリカバリーの説明として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 激しい症状が治まり、薬を必要としない状態になること。
- 2 支援者がクライアントの利益のために、本人の意思に関わりなく判断すること。
- 3 支援者が定めた方針に、クライアントが従うこと。
- 4 専門職が自らの支援やその役割について責任をもって説明を行うこと。
- 5 障害があっても希望をもって新たな人生を再発見し、主体的に生きること。

問題 39 A精神保健福祉士が勤務する地域活動支援センターでは、これまで新型コロナウイルス感染症の流行のため利用人数や利用時間を制限していたが、全面的に再開した。再開後これまでのメンバーに加えて、新たなメンバーも増えてきた。メンバー同士の交流が増えるにつれて、A精神保健福祉士に対して「他の人からの誘いを断りたいけど、うまく断れなくて困っている」「自分の意見や考えをうまく伝えられるようになりたい」といった相談が多くなった。そこでA精神保健福祉士は、相手の気持ちを大切にしながら自分の意見を主張できることを目指す集団プログラムの実施をメンバーに提案した。

次のうち、このプログラムとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 リワークプログラム
- 2 アサーショントレーニング
- 3 TEACCH
- 4 SMARPP
- 5 IMR

## (精神障害リハビリテーション論・事例問題)

次の事例を読んで、問題 40 から問題 42 までについて答えなさい。

### 〔事例〕

ある日、市役所の精神保健に関する相談窓口には A さん(43 歳)が来庁し、担当の B 精神保健福祉士に話をした。A さんによると、会社員である夫(45 歳)は、日頃の仕事のストレスに起因する過度の飲酒が原因で体調を崩し、身体疾患の治療のため入院をした。その後、退院を迎えるに当たり、A さんと夫は、主治医から「体調は落ち着きましたが、アルコール依存症の可能性があるため、精神科を受診を勧めます」と提案を受けた。ところが、退院後、夫に精神科を受診するよう話したが全く聞こうとせず、激しく怒り出すようになった。また、夫が飲酒を再開してしまい、そのことについて、A さんも夫に対し「なぜお酒を飲むの」と怒りの感情をぶつけたことから夫婦関係は悪化した。自分の力だけではどうにもならないと感じるようになり相談窓口を訪れたとのことであった。(問題 40)

A さんの話から B 精神保健福祉士は、精神保健福祉センターで実施されているプログラムを紹介した。それは、アルコール依存症が疑われる人が精神科を受診しようとする時に、本人のキーパーソンとなる人に介入することで、本人を受診につなげるための包括的なプログラムである。その説明を受け、A さんからはプログラムへの参加の意思が示された。(問題 41)

このプログラムに参加するようになり、しばらくして夫は精神科病院を受診することができた。夫は 2 か月休職し、入院治療を受けたことで自身の病状についての理解が進んだ。退院後間もなく、A さんは夫と共に退院の報告を兼ねて B 精神保健福祉士のもとを訪れた。夫は「いろいろありがとうございました。無事に退院したのですが、実は、ストレスがたまるとまた飲酒しそうで怖いです。どうしたら良いのでしょうか」と語り、A さんも「夫が飲酒を再開しないために、私も夫と一緒にやれることを探したいです」と述べた。B 精神保健福祉士は、精神科の主治医に相談することも重要であることを説明しつつ、家族も参加できるアルコール依存症の患者本人を対象とした自助グループを紹介した。(問題 42)

**問題 40** 次の記述のうち、この時点のB精神保健福祉士の対応として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 夫のケアを担うAさんの能力について評価を行う。
- 2 Aさんの怒りの感情や無力感に対して肯定的に関わる。
- 3 夫の入院治療を強く勧める。
- 4 夫の客観的情報の収集を優先して行う。
- 5 Aさんがイネイブラーとして夫を支える重要性を説明する。

**問題 41** 次の記述のうち、このプログラムの特徴として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 対立的手法を積極的に活用する。
- 2 日本で開発されたものである。
- 3 家族が「私」という一人称を主語にして、患者本人に思いを伝える方法を学ぶ。
- 4 専門職から患者本人への直接的な働きかけに重きを置く。
- 5 アルコール依存症に特化したプログラムである。

**問題 42** 次のうち、B精神保健福祉士が紹介した自助グループとして、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 断酒会
- 2 ギャマノン(GAM-ANON)
- 3 アラノン(Al-Anon)
- 4 ナラノン(Nar-Anon)
- 5 ナルコティクス・アノニマス(NA)